

# 牛久：学校周辺に見る自然

第35号 牛久二小

2020年7月25日発行

## ＜ 夏（梅雨）の生きもの観察 ～アベリアに集まる虫たち ＞

こんにちは。牛久二小4年生との夏の生きもの観察、今回はアベリアに集まる虫たちを紹介（しょうかい）します。



アベリア（上）と、その蜜（みつ）を吸うトラマルハナバチ（中3枚と下）。下の写真には、花粉（かふん）かごもハッキリと写っている。

アベリアは日本のツクバネウツギに似ていて、ハナゾノツクバネウツギという別名（べつめい）もあります。6～10月まで咲き続け、刈り込み（かりこみ）に強く、暑さ（あつ）にも寒さにも強く、また排気ガス（はいき）にも強いので生垣（いけがき）などにしてよく植えられます。花はいい匂い（にお）がして、蜜（みつ）を求めてハチやチョウ（おとす）がいろいろ訪（あ）れますが、これを悪臭（あくしゅう）と感じる人もいておもしろいなあと思います。この日は写真（しゃしん）

のトラマルハナバチ、セイヨウミツバチともう1種類（しゅるい）小さなハナバチ（みな）が来ていました。どれも皆（みな）頭（み）をつっこんで蜜（みつ）を吸（み）っていましたが、実（み）はできないようです。



アペリアの蜜を吸うガのなかま、オオスカシバ。

花には、オオスカシバも来ていました。「大きなハチ!」「アブ?」という声も聞かれましたが、スズメガのなかまです。大型で、右下の写真のように羽が透けているので、「大透羽」ですが、ガのなかまと聞いても「刺さない?」「針はないの?」と聞いてくるお友だちもいましたね。まるでハチドリのようにホバリングしながら、長〜いストローをのぼして蜜を吸っていました。使わない時はチョウと同様、右上の写真のようにくるりと巻いています。幼虫はクチナシの葉を食べますので、そばに植えられているクチナシ(第29号を参考に)の葉を食べて育ったものかもしれませんね。



さて、花に来るのは蜜や花粉を求めるものだけではなくではありません。それらの虫たちをつかまえて食べるクモやカマキリなどがかくれていることもあります。じつは、最初の花の写真にもクモが写っていたのですが、気がつきましたか? 左の写真が、そのアップです。花の色に紛れて見落としがちですが、ハナグモの子どもが、えものが来るのを待ちかまえていました。皆さんも探してみましよう。【理科支援員：宮内】

アペリアの花でえものを待つ、ハナグモの子ども。